

平成 27 年度フォローアップ結果への対応状況

機関名	熊本大学				
統括責任者	役職	学長	実施責任者	部署名・役職	研究・社会連携担当理事
	氏名	原田 信志		氏名	松本 泰道

平成 27 年度フォローアップ結果

評点区分：おおむね順調に進んでいる

全体を通した所見

- 地域密着型研究拠点大学の形成を目指し、大学改革の一環として、本事業を明確に位置付け、URA 強化を含め、学長のリーダーシップの下、着実に事業が展開されつつあり、おおむね順調に進んでいることが確認された。今後、持続的発展に向けた方策の検討を期待したい。

特に優れた点

- 国際先端医学研究拠点施設及び国際先端科学技術研究拠点施設の設置による国際共同研究の加速化の推進、テニユアトラック制の活用による国際的な視野に立った若手研究人材の確保など、国際的に優れた研究者を確保するための意欲的な取組が見られる。

期待する点

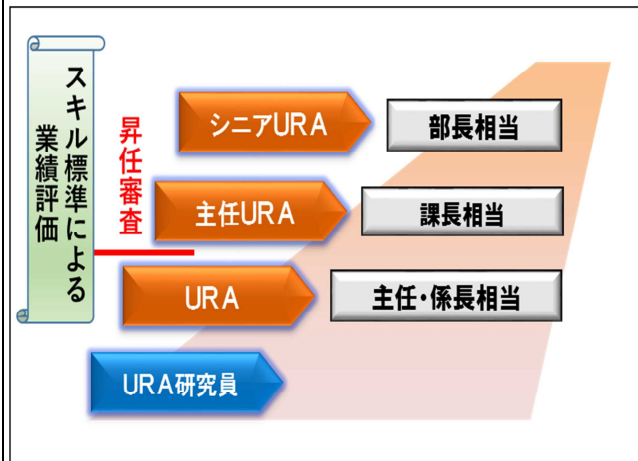
- 従来からの URA 類似職と本事業による URA 職をどのようにして統合し、大学全体の教員・職員の組織・機能の強化に結実させるかの全学的ロードマップを検討することが期待される。
また、URA の教育の視点からの取組の充実も期待したい。

平成 27 年度フォローアップ結果コメントに対する事業の課題と展望

① URA の人事制度

現在、URA 及び URA 類似職が本学の管理運営、発展等に積極的な役割を果たすために必要な人事システム改革が進展中である。また、IR 室に URA を参画させ、経営支援、執行部の補佐機能など、多様な役割に対応している。

URA の人事制度及びキャリアパスに関しては、その類似職も含め高度専門職として位置づけ就業規則、雇用規則、給与規則等の改正を平成 29 年度までに完了する。なお、「URA スキル標準」を平成 27 年度に策定し、評価については既に実施しているところである。加えて、URA 研究員制度のもと、URA 研究員を雇用し、URA の補助者として URA の業務に直接携わり、URA と共に行動することで、その知識や技術を修得させており、主に大学院学生を、これまで延べ 5 名雇用している。



世界水準の研究環境

- ・国際先端医学研究拠点施設(平成26年竣工)
 - ・国際先端科学技術研究拠点施設(平成26年竣工)
 - ・国際先端医学研究機構(H27年設置)
 - ・国際先端科学技術研究機構(H28年設置)
- 国際コーディネータ等 ※生命、自然、人社の3分野の国際共同研究拠点に配置
- ・MOUの締結支援
 - ・国際シンポジウムの開催

組織的な支援の充実

URA

※全学組織として運用

- ・研究力の調査・分析や、それに基づく施策提言
- ・産学連携や知的財産に関する支援

② URA の教育制度

スキル標準に基づく「必須研修」としての申請書作成スキル、研究力分析スキル、プレゼンテーションスキル等をベースに URA 各人のキャリアや業務内容に応じた「固有スキル習得研修」を組み合わせて実施し、効果的な URA の育成を図っている。また、これまでの取組や課題を共有し連携強化を図るために、九州地区での URA 連携シンポジウムを平成 28 年度中に開催し、複数機関による URA の合同研修等を企画している。

③ 国際共同研究の推進

生命科学、自然科学、人文社会科学の 3 分野に国際共同研究拠点を置き、国際コーディネータ等を配置している。各拠点では、研究者、国際コーディネータ、URA をメンバーとする定例の拠点会議を開催し、協働体制による取組を推進している。その結果、生命科学系及び自然科学系においては、それぞれ国際先端医学研究機構(平成 27 年設置)、国際先端科学技術研究機構(平成 28 年設置)を国際水準の研究環境を先導する研究組織として創設するに至った。人文社会科学系においてもより一層の国際化を推進しようとするところである。



研究大学強化促進事業推進委員会コメント

- 展望に沿った着実な取組と今後の展開を期待する。URA の人事制度面の整備については、早期の実現が望まれる。